

2月27日(水)実施

松崎町との連携事業 (桜葉の種まき)

桜葉産業の担い手確保へ

支援学校生徒 種まき初体験

松崎町と農福連携

松崎町と県東部特別支援学校伊豆松崎分校の生徒ら約30人が27日、桜葉のもとになるオオシマザクラの種まき体験を行った。町は将来の桜葉産業の担い手を確保するため、「農福連携」で支援学校の生徒が桜葉就業できる体制づくりを進めている。



支援学校の種まき体験は初めて。桜葉生産者らでつくる「伊豆松崎町桜葉振興会」(大石孝広会長)のメンバーが種まき方法を指導しながら、砂とオオシマ

ザクラの種を選別。発芽率を向上させるため、土を入れた農業用トレーに種を植えた。その後、支援学校のために町が整備した桜葉農場へ移動し、畑に直接種をまく「直まき」を行った。

今後、トレーに植えた種が発芽したら5月ごろ、畑に移植する。町内の生産者の協力を得て、桜葉の収穫体験なども行う予定。

同校の高橋和彦副校長は「町の地場産業に携わる事で、生徒の中に地域に貢献しているという自信が生まれ、向上心につながる」と期待を寄せる。大石会長は「桜葉生産の技術を残していくためにも協力していきたい」と話した。

(松崎支局・市川幹人
選別したオオシマザクラの種を畑にまく生徒ら

松崎町